

# 令和6年度 事業計画書

吉賀町社会福祉協議会

# 目次

基本理念・基本目標と基本方針	2
令和6年度事業計画	
Ⅰ 法人全体	3
Ⅱ 在宅福祉部	
総合相談支援課	5
総合相談支援所	
シルバー人材センター	
地域包括支援センター	
ケアマネセンター	
訪問看護ステーション	
アスノワ	
介護保険課	9
ヘルパーステーション	
六日市デイサービスセンター	
七日市デイサービスセンター	
柿木村デイサービスセンター	
Ⅲ 施設福祉部	12
特別養護老人ホームみろく苑	
特別養護老人ホームとびのこ苑	
グループホームあさくら	

## 基本理念

「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」

## 基本目標と基本方針

- ◆ 支え合いと参加のまちづくりを目指します。
  - ◆ 住民主体を基本に自立と支え合いによるまちづくりを目指します。
  - ◆ 地域のあらゆる団体、組織との連携・協働したまちづくりを目指します。
- ◆ 住民から望まれるサービスを提供します。
  - ◆ 利用者・地域住民から評価される質の高いサービスを提供します。
  - ◆ 社会環境の変化と新たなニーズに対応したサービスを提供します。
- ◆ 人を育て、人が育つ環境づくりに努めます。
  - ◆ 自らの人格を磨くとともに専門性・実践力を高めます。
  - ◆ 福祉人材の育成・確保のための職場環境を作ります。
- ◆ 無駄をなくし安定した経営を目指します。
  - ◆ 各種制度の意思・方向性を的確に見極め安定した経営を目指します
  - ◆ 一人ひとりが自覚を持ち効率的な経営を目指します。

## I 法人全体

新たに令和6年度から令和8年度の3か年を計画期間としたバランスト・スコアカード（BSC）を作成し、7項目の戦略的目標とそれを達成するために13項目のアクションプランを設定した。その中から令和6年度に重点的に取り組む事項を下記に掲げる

- ①地域住民のつながりづくりや地域の互助力向上の取り組みは、重層的支援体制整備事業を活用し、高齢者のみでなく子どもたち・若い世代・外国人など、年代や国籍にとらわれず、すべての住民を対象としておこなう。特にこれまでも積極的にすすめてきた「ちいさな集い事業」と「地域お助け事業」にあたっては、地域住民が主体的におこなえるよう支援をおこなう。
- ②近年、災害が大規模化・頻発化しており、いつどこで甚大な災害が発生するかわからない状況である。災害福祉の重要な支援活動である、災害ボランティアセンターの迅速な立ち上げと円滑な運営に向けて、県社協や地域の方と協働しながら訓練をおこなう。福祉避難所に指定されている特別養護老人ホームみろく苑・とびのこ苑において、入居者の安全を確保しつつ、どのように福祉避難所を運営していけばよいか、町の方針に従い運営マニュアルを作成する。また、定期的に法人の防災計画や事業所のBCPを見直していく。
- ③よしか病院や介護医療院が開設され、在宅療養が積極的にすすめられることとなる。社協の強みをいかし、地域住民がどのような介護サービスを必要としているかを客観的に把握し、社協に求められる福祉サービスの形に見直していく。
- ④人口減少が進み、人材確保が困難となる中、定年退職前の職員及び60歳以上の職員に、今後の働き方についての聞き取りをおこない、職員減少に対応するための職員採用計画を策定する。人材確保にあたっては、外国人の介護人材や吉賀町の魅力を活かした都市部のIターン者の積極的な獲得、また社会福祉連携推進法人制度を活用した人事交流など、多様な方法を検討する。
- ⑤職員がやりがいをもって働きつづけられるよう、また魅力的で選ばれる組織となるよう「利用者のQOL向上」「ADL・IADLの維持向上」「地域への貢献」「収支バランスの維持」などの要素をふまえながら、個々の働き方に連動した給与体系への修正に向けて、人事制度の再構築をおこなう。

## 《戦略的目標を達成するためのアクションプラン》

- 地域住民がつながり・支え合う風土の創造
- 地域で安心して住み続けるための基盤づくり
- 社協らしい福祉サービスの提供
- 多機関協働による包括的相談支援体制の構築
- 自立支援介護・科学的介護の取り組み
- 算定可能な加算の積極的な取得
- 事業所ごとの予算実績管理の徹底
- 感染症や災害への対応力強化
- 業務効率の向上
- 計画的な人材の確保
- 給与体系の修正（ジョブ型賃金制度の検討）
- 職員育成制度の構築と効果的な研修の実施
- キャリアアップを目指した資格取得の奨励

## II 在宅福祉部

### 総合相談支援課

#### 総合相談支援所

##### 《目標》

地域住民が我がこととして地域づくりへ参画し、国籍や世代にとらわれず住民同士が共に支え合える仕組みとして、地域住民のコミュニティの場を創出し互助力の向上を目指す。

①住民同士が繋がり、支え合いながら、地域づくりに参加できるコミュニティの場として、「ちいさな集い事業」や「地域お助け事業」を積極的に進める。また、住みやすい地域を目指し、地域の課題や地域ニーズを的確に把握するため、地域アセスメントを継続する。

②福祉関係機関が一体的かつ、包括的に関わる事で、生活課題解決に繋げていけるよう、重層的支援体制整備事業（多機関協働、アウトリーチ、参加支援、地域づくり）を実施し、全地域住民に対する重層的な支援体制の強化を図る。

③無料職業紹介事業所を開設し、生きづらさを抱え、閉じこもりがちな方が、自立した生活を営むことができるよう、関係機関と協働しながら就労支援を行う。

④地域住民による支え合いをすすめていく為、学生や若い世代に対して重点的に福祉教育を行い、支え合いへの理解と参加を促していく。

⑤地震や台風等の災害時の支援として、島根県社会福祉協議会から協力をいただき、災害ボランティアセンター立上げ訓練を実施し、当町に適したセンターの運営を検討する。

#### シルバー人材センター

##### 《目標》

島根県シルバー人材センターの目標会員6,000人達成に向け、働く意欲のある60歳以上の方へ働きかけ、会員115人以上を目指す。

- ①労働者が不足している企業・行政への一助として、労働者派遣事業（シルバー派遣事業）に取り組み、新規会員の確保に努める。
- ②会員の安全・適正な就業環境を確保し、就業前の自主点検を行い、事故の未然防止に努める。また、事故が発生した場合、運営推進会議において、検証を行い、安全作業に努める。
- ③令和6年秋に施行予定である「フリーランス新法」に向け、近隣のシルバー人材センターと情報交換を行いつつ、会員と発注者への適切な契約へ移行する。
- ④60歳代の方を中心に、新規会員の獲得に向け、事務局と会員による勧誘活動を進める。
- ⑤茶話会やスマートフォンの勉強会等を企画し、会員同士の交流を深め、仕事以外の楽しみを作っていく。
- ⑥今まで依頼が多かった草刈り・剪定などの受注はもとより、地震による家具転倒防止に向けた器具の取り付けといった、新たな受注を検討する。

## 地域包括支援センター

### 《目標》

住民が住み慣れた地域で自分らしい暮らし、自分らしい人生が送れるよう、地域の身近な機関として早期に課題を解決できるセンターを目指す。また、様々な分野とのネットワークを築き、協働して、吉賀町の実情に応じた地域包括ケアシステムの深化と地域共生社会の実現に向けた中核機関としての活動を進める。

- ①複合的なニーズを持つ利用者・家族の生活に応じ、個人の強みを生かしながら自宅で自立した日常生活を営むことを可能にする質の高いケアマネジメントを実践する。
- ②住民一人一人が主体的に健康への意識を高められるよう、医療・介護・福祉サー

ビス機関と協働して介護予防事業を展開する。

- ③住民の権利が護られるよう、高齢者・障がい者の虐待防止に積極的に取り組み、虐待の通報や相談時の速やかな対応、早期発見・早期対応を関係機関と連携して行う
- ④認知症についての正しい知識の理解が深まるよう、地域での普及活動を行い、認知症にやさしい地域づくりを推進する
- ⑤災害や感染症発生時に適切な対応を行えるよう、マニュアルに基づいた訓練と定期的な見直しを行い、対応力の向上を図る。
- ⑥心理的安全性の高い職場づくり、ライフワークバランスを意識した働きやすい職場をつくる。
- ⑦住民一人一人に寄り添い支援する姿勢を持ち続け、社協職員、専門職、町内のチームの一員として役割が発揮できるように自己研鑽に努める。
- ⑧認知症、在宅医療、看取り等、高齢社会の課題への理解を深めるため、創意工夫をし、一般の方や福祉医療分野の従事者を対象とした講演会・映画上映会、研修会を実施する。

## ケアマネセンター

### 《目標》

医療ニーズの増加と複雑化するケースに対応できるよう、ケアマネジメントの質の向上や多機関との連携に努め、利用者や家族等が住み慣れた自宅で自立した生活が継続できるように支援する

- ①医療機関との情報連携を強化・推進するため、入院時の情報提供を迅速に行い、退院に向けての情報収集や退院前カンファレンスに積極的に参加し、加算を算定する。

②業務の効率化と合理化を図るため、ICT 機器の導入を検討し、時間外勤務を減らすよう努力する。

③多様化・複雑化する課題に対応するための取組を促進する観点から、ヤングケアラー、障害者、生活困窮者、難病患者等、他制度に関する知識等に関する事例検討会、研修等に参加する

④感染症や災害時の BCP の定期的な見直しや周知を図り、災害時等も事業運営が継続できるよう努める

## 訪問看護ステーション

### 《目標》

利用者と家族が安心して在宅で療養できるよう関係機関と連携をとりながら必要なサービスを提供していく。

①まめネットや退院前カンファレンス、サービス担当者会議などを積極的に活用し、リアルタイムで情報共有を行うことで、利用者中心のプラン作成や質の高い看護サービスを提供できるよう取り組んでいく。

②事業継続計画（BCP）に基づき訓練を実施する。また必要に応じて計画を見直し職員に感染症や災害時の対応を周知徹底することで、業務が安全に継続して行える体制を構築する。

③訪問看護の認知度向上にむけて島根県訪問看護ステーション協会で作成した PR 動画をケーブルテレビで配信したり、地域の集会で上映するなどして地域や医療機関に訪問看護サービスについての理解を深めてもらうように取り組む。

④看護職員の技術向上のため研修機会を提供する。また年齢、家庭の事情に関わらず安心して働けるように訪問シフトの工夫など労働環境の見直しを行って行く。訪問先で記録の参照や入力ができるようにタブレット端末の導入を検討する。請求業務など看護師以外ができる業務を事務職員に任せるなど業務負担の軽減を図る。

## アスノワ

### 《目標》

- ①障がい者が、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、通所をとおして職業訓練及び生活指導を行い、明るく、楽しい、張り合いのある事業所を目指す。
- ②生産活動を通じて利用者が働く喜び・充実感が得られるように特性に応じた作業や指導を行い、工賃向上を目指す
  
- ①閉じこもりがちな障がい者等へアウトリーチを行い、関係機関と連携しながら就労に結びつくように支援する。
  
- ②利用者の心身の状況や置かれている環境の把握に努め、利用者の特性やニーズに合った新たな作業の提供や環境づくりを行う。
  
- ③利用者が自己理解を深め自分にあった作業を無理なく行い、集中力や責任感を高め、働くことへの意欲や自信を獲得できるよう支援する。
  
- ④地域行事・イベント・日帰り旅行等、余暇活動を通して楽しみながら自立心やコミュニケーション力を身に着けてもらうよう支援する。
  
- ⑤アスノワブランドのポン菓子製造・開発を行い、商談会に積極的に参加して、卸販売を重点的にすすめていく。SNS等を通じてポン菓子の新商品等をPRする。
  
- ⑥職員のスキルアップに努め、事業継続に必要な資格の取得を行う。

## 介護保険課

### ヘルパーステーション

### 《目標》

笑顔、元気、そして勇気をこめて利用者の皆様にパワーチャージする。  
利用者の想いを汲み取り、自律支援に向けたサポートをする。

- ①利用者が自分らしく納得のいく生活が維持できるよう身近な存在であるヘルパ

一がいち早く利用者の権利擁護や体調変化、困りごとに気づき、関係機関につなげ情報を共有する。また利用者の想いを傾聴し、サービス担当者会議等で代弁したり、利用者の意思決定や QOL を高めるようなサービスの提案を行う。

②看取り期にある利用者へ気持ち良い入浴が提供できるよう、簡易浴槽での入浴支援について全職員で定期的に研修を重ねる。

③利用者の多様なニーズに対応するため、保険外サービスの提供を検討していく。

④認知症研修等の研修に参加し職員のレベルアップを図り、新たな加算の取得をめざす。

⑤業務効率の向上のため、ICT を活用し、移送記録、活動記録、訪問記録を電子化する。

⑥利用者の安心・安全のために、感染症や災害に対応できるよう、BCP の計画の見直しや訓練を行う。

## 六日市デイサービスセンター

### 《目標》

利用者が希望する生活を把握し、それを維持できるよう、利用者の意思決定支援や権利擁護を行い、希望に柔軟に対応できるデイサービスを目指す

①利用者の希望する生活が最期まで維持できるよう、将来の変化に備え、意思決定支援 (ACP) について専門の方を招いて話をしてもらい利用者と職員がともに学んでいく機会を作る。

②利用者の尊厳が守られるよう権利擁護について学び、利用者の希望に沿ったサービスの提供を心掛け、事業所内はもちろん在宅でもグレーゾーンや虐待に繋がらないよう、気づいたことを事業所内や虐待防止委員会で共有し改善を図りながら支援を行う。

③他事業所と連携を図り新規利用者、通所回数の追加希望などの受け入れを積極的に行う

④利用者が安心して通所できるよう、感染症や災害対応について平常時や緊急時の対応のシミュレーション研修・訓練を年1回以上実施する。

## 七日市デイサービスセンター

### 《目標》

職員の問題解決力、柔軟な対応力を高め、利用者個々のニーズに応じていき、満足感や楽しみを持って通所出来るデイサービスを目指す。

①問題解決力・柔軟な対応力を養うために危険予知トレーニングを実施しリスクマネジメントが出来る職員を育成する。

②利用者のニーズ把握を行うために利用者と共に話し合い、行事を考え、計画・実行していく。

③自立支援を目的とした「待つ介護」を実践することで利用者の残存機能を引き出し、活動量を上げることで役割や居場所を作り、一人一人の満足度を上げる。

④ゆとりのある業務が遂行できるように、利用者のニーズに沿った通所時間や業務の見直しを行い、必要な時間に必要な人員を配置し利用者の満足度を上げる。

⑤感染症・災害時のマニュアルを再確認し、利用者および職員が的確に行動が出来るよう訓練を行う。

## 柿木村デイサービスセンター

### 《目標》

利用者が安心して通所でき、地域とのつながりが増え、楽しみや達成感を実感できる支援を行う。

①利用者の強みや得意なことを知り、それを続けていくことでQOLの維持向上に

つなげていく。またその情報を職員全員で共有して、統一した支援を行う。

②利用者やご家族の身近な存在として想いに寄り添い、困りごとを早期に把握する。また解決に向けて多職種と情報共有を行う。

③野菜作りや調理実習を利用者と行い、教えてもらったり、経験や思い出を語ってもらうきっかけづくりや、楽しい時間が味わえる機会を多く持つ。

④昨年度から取り組んでいるモノづくりを継続して行い、利用者が自身の出来ることを知り、他者と協力しながら作成し、完成した作品を見ることで満足感や達成感を実感できるようにする。

⑤職員全員が業務改善の意識を持ち、改善することで、スムーズな業務が行え、職員の個々の負担が軽減できるようにする。

### Ⅲ 施設福祉部

#### 特別養護老人ホームみろく苑

##### 《目標》

「ご利用者に対し尊敬、思いやりの心で接し自律した生活の支援」という運営理念のもと、入居者・家族の希望に沿ったケアが実践できるよう、科学的介護、自律支援介護、看取り介護の取り組みを深め生活の質と満足度を高めていく。

①入居者が自分らしく安心して生活ができるよう、日々の状態を把握し、必要に応じて身体・精神状況との因果関係に着目することで、科学的介護の視点で分析してケアに繋げる。

②「施設内に感染源を持ちこまない」を目標に職員の体調管理の意識づけと衛生環境に配慮する。感染症や自然災害のBCP（事業継続計画）に沿い、全職員が迅速安全に行動できるように、日頃からの訓練や周知を徹底する。

③安定した施設経営を行うため、空床期間を短縮しスムーズな入居が出来るように

調整し稼働率 97%を目指す。価格高騰が続く中、全職員で経費削減の意識を持ちコスト削減に向け日々の業務を遂行する。新しく取得する自立支援促進加算と、現在の取得している加算の継続を行う。

④維持修繕計画に沿い地域密着型のルームエアコン取替工事を行う。又、経年劣化で破損個所や修理が必要な物については、入居者の安全安心を考慮し速やかに対策を講じる。

## 特別養護老人ホームとびのこ苑

### 《目標》

法人理念のもと「人権に配慮し入居者一人ひとりのニーズに応えるサービスの創造と提供に努める」をとびのこ苑の理念とし、入居者の尊厳を保持し、願いや希望に沿った自立支援及び意思決定支援を基に認知症への対応力も強化する。また、感染症や災害への対応力強化のため配置医師及び協力医療機関との連携体制を確保し、継続的にサービスが提供できる体制を構築する。

①現在取得している科学的介護 (LIFE) 関連加算に係る支援計画に基づき適切なケアを行い評価していくことで入居者の自立支援、重度化防止に努める。

②委員会活動を活性化させ、リスクマネジメントの強化、ならびに権利擁護の視点を持ち認知症の対応力を強化しサービスの質の向上に努める。

③ACP についての理解を深め、入居者、ご家族の意向に寄り添い意思決定支援を行うとともに最期の瞬間までその人らしく生きるお手伝いをする。

④BCP (事業継続計画) がさらに実効性のある計画となるよう、点検及び訓練を実施する。町内医療機関の夜間救急体制の変更に伴い、嘱託医や新たな協力医療機関との連携体制を構築し、感染症への対応力の向上を図る

⑤排泄支援、褥瘡マネジメントなど科学的介護 (LIFE) 関連加算のアウトカム評価に目を向け、介護の質の向上に係る取り組みを充実させる。また算定可能な加算を積極的に取得する。

## グループホームあさくら

### 《目標》

認知症になっても住み慣れた地域でその人らしい生活、その人らしい人生の最期を過ごせるための支援を実践する。

- ①入居しても地域の人たち、ご家族、親しい人達のつながりや交流が続けられるよう支援する。サクラマスなど地域の子供たちとの交流、認知症ひだまりの会などへの参加等、地域住民との交流を図る。
- ②事業所の安定した経営を行うため、職員全員が経営状況の把握に努め、入院及び空床数を減らし、目標稼働率 98%を目指す。業務内容の見直し、業務の効率化、コストの削減を図るため、各々が具体的なアイデアを提案し実践していく。
- ③策定した自然災害 BCP および感染症 BCP をもとに、研修や訓練を開催する。実際に経験したことを生かせるような内容になるよう、その都度 BCP の内容を改善し、入居者が安心安全に生活でき、尚且つ職員の安心安全も担保できるような体制を構築する。
- ④認知症ケアに関する意識の向上に向け、適した研修を受講し、事業所全体のスキルアップを図る。また、職員一人ひとりの個人目標に合わせて研修を受講できるよう努める。
- ⑤昨年度に引き続き、日常のケアの中で心温まる事例があれば「にやり・ほっと」事例の提出を継続する。利用者の長所をみつけ、思いやりを持って接することで、丁寧な対応ができるようになり、虐待防止、権利擁護の意識の向上を目指す。